

平成 22 年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・前期・選択
	対象学科・専攻	土木工学専攻
資源循環システム論 (Resource circulation system)	担当教員	前野 祐二 (Maeno, Yuji)
	教員室	専攻科棟1階 (Tel. 42.9118)
	E-Mail	maeno@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位数	講義 / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(200分)〕 × 15回	
〔本科目の目標〕 今日の社会経済活動が環境に地球規模で影響することを、深く受け止め、その影響をできるだけ少なくすべく、社会システムを循環型として再構築することで解決を計ろうとする。その一端として廃棄物処理の観点に立ち、資源の循環をシステムティックに学習する。		
〔本科目の位置付け〕 社会経済活動に伴って排出される廃棄物を、資源循環の対象としてとらえる。経済活動に環境保全をとり込むことにより、環境と経済が真に統合され、持続的に発展することを資源循環を通して学習する。本科での「環境工学」、専攻科での「廃棄物工学」を修得していることが望ましい。		
〔学習上の留意点〕 毎回の授業に対して、予習、復習を各 100 分ずつすることが望ましい。常に新聞記事や専門誌により幅広い知識を取得することは特に有益である。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 循環型社会への道	4	人類の歴史と廃棄物、廃棄物・リサイクル対策の系譜を理解できる 循環型社会の姿を理解できる
2. 循環資源の発生、循環的な利用及び処分の状況	6	発生量、循環的な利用の量及び処理量を理解できる 循環資源の利用促進と地球温暖化対策、環境保全上の支障の防止を理解できる
3. 循環型社会の形成に向けた制度の整備状況	6	施策の基本理念・手法の進展、法制度の整備、循環型社会形成推進基本計画の策定を理解できる
4. 廃棄物等の発生抑制及び循環資源の循環的な利用の取組み状況	4	廃棄物等の発生抑制及び循環資源の利用 ごみ焼却施設の熱回収の取組み、国民意識調査を理解できる
5. 適正処分の推進	4	廃棄物処理対策、産業廃棄物の広域移動 不法投棄対策、有害廃棄物の越境移動を理解できる
6. 循環型社会を形成する基盤整備	4	財政措置、教育、広報、民間活動の支援、人材育成 国際的取組みを理解できる
--- 定期試験 ---	2	授業項目 1. ~ 4. について達成度を評価する
試験答案の返却・解説		試験において間違った部分を理解できる
〔教科書〕 循環型社会白書		
〔参考書・補助教材〕 循環型社会づくりの関係法令早わかり、他		
〔成績評価の基準〕 講義と演習、レポート(70%) + 定期テスト(30%) - 授業態度(上限20%)		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 3-3		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-3		
〔JABEEとの関連〕 (d) (1)		